

# 幼児教育とお正月

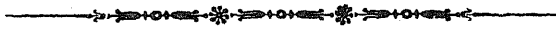
和田 實

芽出度いお正月早々又しても理屈ほいお談義は甚だ以て恐縮の次第ではあるが、持つて生れた武骨性は時と處とに構ひもなく突發するので少しばかり御耳、否御目に達したいと存じます。扱て云ふ迄もなくお正月は子供の世界である。もう幾つ寝ると」と指折り數へて待つて居つたお正月のことであるから子供が憐々として喜び遊んで居るの當然のことであるが然りとて之を放任して置いたでは此機を利用して教育し様と云ふ譯には行かぬ。否此悦ばしきお正月として幼児の發達上價値ある生活の一部分たらしむることが出来ぬ。因つて今幼児教育上父兄の最も注意すべき一二項を掲げて見様と思ふ。

一父兄は此機を利用して幼児と交際す可し。

平素は父親にしても母親にしても職業其他のことでおち／＼と幼児を相手にして居る譯には行かぬ

のが普通一般のことである。殊に父親などは此點に於て平素は頗る非教育的である。従つて子供は父親の性格などに因つては何等の感化を受けて居らぬのが多い。可なり能く子供の面倒を見る父親でも迎も正月の様に子供を相手に悠々と談笑する譯には行かぬ。然るに正月は此點に於て可なり時間を平素に比しては非經濟的に費すことが出来る。此非經濟的時間即ち悠々と消費する時間は幼児に採つては最大好期で此時に於て充分に父親と交際し、母親と交際し乃至叔伯父母に接し親族の誰彼にも接して一には實際的習慣を實地に練習し一には夫等の人の性格の感化に浴し漸次家風、に浸染し行く機會を得るのであるから正月は幼児教育上頗る大切なる時期と云はねばならぬ。世の父兄たるものは此心を以て充分に自己の誠意を盡くして幼児を遇し一方には之を感化し誘導して己が肉身の子としての同化を計り一方には我子の發達の現在那邊にあるか平素の家庭教育乃至は學校教育は如何程の効果を表はし居るやを觀察す可きである而して此間の觀察に因つて得たる所は幼児今後の



教育の方針となり、父兄の教育思想の材料となるものである。故に世の父兄たるものは此れも正月に際して特に我子等と悠々交際するの時間を惜んではならぬ譯である。然るを況んや酒食に荒さみて時ならぬ無禮講をそこへに演出して平素の謹嚴なるかの如き風彩を幼児の眼前に打ち崩して幼児をして人は皆斯の如き不体裁なるものなるかの感を抱かしむるものあるは誠に言語に絶えたる失体と云はねばならぬ。更に之を幼児の側より見れば平素尊嚴の意のみ強くして恩愛の恵み少く感ぜし父親よりして遂に骨肉の温情を得るの機を逸せしむるもので若し幼児をして云はしむれば不幸之に過ぎたるものなしと云ふに遠ひない。吾人は世の忙しき父親をして切に此機を利用して幼児を賞撫せられんことを而して其平和なる夕の敷刻を彼等との清話の爲めに費されんことを、我親愛なる多くの幼児の爲めに切に希ふものである。

二 幼児の遊戯を賞勵す可し  
遊戯は幼児の好む所のもの、常に要求する所のものである。従つて殊更に之を激勵するの必要もな

いものであるが併し正月は時正に酷寒で幼児は稍もすれば老人の仲間入をして炬燵やあんかにもぐり込むものがないとも限らぬ。此の如きは決して幼児をして發達せしむる所以ではない。人或は冬期は植物の生長の止まるが如く子供の生長も休止せるが如くに考へて従つて然のみ教育的施設を要さぬかの様に考ふる人もないではない。是は其を知つて其二を知らぬものである。成る程冬は幼児の身体的生長の上になしたる増加を見ることがない。併しながら其内部的發達、活動の巧緻と云ふことは寧ろ此間に進歩するものと云はねばならぬ。此時に於て遊戯は決して輕視す可からざるものである。遊戯は幼児の活動の發達上極めて緊要なる練習事項である。人或は遊戯を以て單に滑稽的嬉戲と認むるものがあるが飛んでもない間違いである。勿論滑稽的遊戯も吾人の認むる所であるが然も是は遊戯の一性質に過ぎない。寧ろ遊戯の本質其ものは頗る眞面目なるもので然も極めて練磨的のものである。此程の意味に於ける遊戯は冬期に於て最も練習に適すと云はねばならぬ。況

練磨的のものである。此程の意味に於ける遊戯は冬期に於て最も練習に適すと云はねばならぬ。況

して此種遊戯の結果は体内の發温作用を興奮せしめて生理的機能をも進歩せしむるものである。従つて其實勵する遊戯は多くは練習的なるを良としなければならぬ。更に適切に云は、運動的なるものを最も適當なりとするものである。人或は此機を以て寄席、芝居其他の觀察的遊戯を興して大に子供を愛したと考へて居る人もあるが吾人は之を採らぬものである。何となれば斯る觀察的遊戯は此永き休みの中の僅かなる時間のみ用ゐ得るもので其他は依然として費され可く殘されて居るので従つて觀察的遊戯の分量よりは練習的遊戯を多量に要するからである。而して子供に遊戯を賞勵する手段として父兄は進んで自ら子供の仲間入りをして共に遊ぶ可きである。風上げ、追羽子、最も結構である。かくれんぼ、探し物、また頗る妙である。吾人は父兄が幼兒を對手としたる家庭幼稚園の日々繰返されんことを希望して止まざるものである。

三幼兒教育とかるた會  
吾人はかるた會を以て或一派の人の主張するが如

く教育上何等の益なしと認むるものにあらず。然もかるた會に幼兒教育とは全然無關係なる可きを主張するものである。否或場合に於てはかるた會を以て幼兒教育の見地より之を排斥せんことを欲するものである。之を幼兒教育の側よりすればかるた會を催ふされんよりは希くは談話會を催ふされ、唱歌會の催ふされ遊戯會の催ふされことを主張するものである。親しき親族又は近隣の間に於て太陽の光線のある間を限りて今日は甲家に明日は乙家にと數日の間交はるゝ小兒會を催ふして談話、音樂、競戲の三方面に於て幼兒を遊ばす可き工夫を凝らされんことを切望するものである。

四 双六と幼兒教育

双六は正月の玩具として遊戯として歴史的威權をも有するものである。従つて現今に於ても或は教育双六の名、繪双紙屋の店頭に往々にして見らるゝことがある。實に怪しからぬ限りである。元來双六は觀察的遊戯の一種で豫期的賭博的興味を満足せしむる外何等教育的價値を有するものでは

ない、然るに世人は何等の疑念もなく之を幼児に賞勵すの有様である。吾人教育者の立場よりして見れば沙汰の限りと云はねばならぬ。此の如き非教育的なる玩具は速かに我幼児教育界より放逐するの必要がある。尤も吾人が双六を忌むのは所謂東海道双六曰く何々双六と云ふ其名前や繪圖面の組立て方に就て云ふのではなくて單に「さい」を玩んで偶然の結果で勝負を争ふ所にあるのである

から若し此双六の遊戯法を改良して他の或競技的方法を以て勝負を争ふことになるならば、吾人は寧ろ手を上げて之を賛するものである、何となれば双六其ものは巧みなる排列又は組立てを有するもので此點に於ては實に理想的玩具と云ひ得るからである。故に吾人は世人が速に此遊戯法を改良して教育上に利用せられんことを望むものである。

朝鮮婦人の容貌

日本人は黄人種で、誰の顔でも黄色味が多少帯びて居るが、中には歐羅人、即ち白哲人の顔に些しの遜色もない程に、白紅色の顔の日本婦人も少なく無いと、ベルツ博士も確言して居るのである。然るに韓國婦人には、白哲を呈せる顔は殆んどない。日本人中には其祖先が朝鮮から来たもの、外に、馬來とアイヌとの二種があつて、以上三つの型がまじつて居るから違ふのである。日本人の眉毛は一方だけ平均一千本あるとは、東京帝國大學の解剖教室の調査で明瞭になつて居るか、韓國人は、大層薄いのである。韓國婦人は其理思として柳眉を貴び、上下の端をひどく抜去るから、中心だけ残り居るので、其数は分らねも、眉の濃いのは十人に二人、中位が十人に三人、あとの五人は甚だ薄いのを通例とする。而して韓國婦人は日本婦人よりも眼背が稍上り鼻の格好も其根部が廣く、鼻尖に至る傾斜が甚だ小である。日本婦人の口裂は普通一直線を成して居る、が韓國婦人は兩口角が稍下方に垂れて居る。又、日本の男子と、支那の男子と比べると、三點の相異がある。此三點は、如何に、日本人が支那を裝うて見ても、化け了せぬのである。其れは第一日本人は支那人よりも毛深く、髻を割りても其痕の違ふと、第二は日本人は眼光が鋭いと、第三日本人の足の先は支那人よりも廣いと。